



この日記は手術を受ける患者さんの術後回復を目指す目的で使用する日記です。

本日、手術準備外来で受けていただく項目と担当者について

項目	担当者
1. 問診・可動域チェック	看護師
2. 口腔内のチェック	歯科衛生士
3. 麻酔に関してのご説明と同意	麻酔科医師
4. 身体測定・栄養に関するご説明	管理栄養士
5. お薬に関するご説明	薬剤師
6. 入院・手術に関する全体的なご説明	看護師
7. その他、総合的なご案内	メディカルアシスタント

本日、手術準備外来では、患者さんに入院中のイメージを持っていただくために
「入院中のイーじビデオ」をご覧ください。こちらのQRコードからもご覧になれます。



済生会横浜市東部病院 「患者支援センター」について

「患者支援センター」とは？

「当院で手術を受けられる患者さんに最も適した医療環境を提案し、安心して安全な周術期管理を支援し、患者さんの術後回復を推進させる」ことを目的に、2016年8月に開設されたセンターです。当センターの愛称は、「Tobu Hospital Patient Support Center」略してTOPS（トップス）です。TOPSでは、患者さんと共通の術後回復目標として、手術後に早く飲める（Drinking）、食べられる（Eating）、動けるように（Mobilizing）の3つの目標（DREAM:ドリーム）を推奨しています。

患者支援センターでは具体的に何をするの？

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士により、手術前の患者さんの情報収集、身体状況・口腔状態・服薬状況・栄養状態等の確認、手術・麻酔に関する情報提供を行います。原則として手術の2週間前に主治医の先生の紹介にて予約を行い、受診していただきます。手術準備外来を受診していただく目的は、手術・麻酔に対する不安を軽減し、患者さんに術後の回復意欲を高めていただくためです。

入院中の生活や手術後の状況をイメージし、患者さんの不安を軽減できるようにサポートします。



入院前の準備

- 禁煙（**きん**えん）する →3 ページ参照
- 禁酒（**きん**しゅ）する →3 ページ参照
- 積極的に動く（貯筋：ちょ**きん**） →4～5 ページ参照
- 呼吸のリハビリを行う →5～6 ページ参照
- 休止する必要のあるお薬 →2 ページ参照
- 血糖の管理をする →3 ページ参照
- 体重の管理をする →1 ページ参照
- 栄養剤を飲む →1 ページ参照
- お口の中をきれいにする →4 ページ参照
- 体調管理をする →4 ページ参照
- せん妄の予防をする →19～20 ページ参照

手術後の目標 DREAM(ドリーム)

- 手術後の回復目安は、飲む、食べる、動く、ことが無理なくできることです。
- 私たちは、手術後に痛くなく、気持ち悪くない環境を提供します。
- 手術後に主治医の先生の許可が出たら、次の3つの事項(DREAM：ドリーム)を目指しましょう

<DREAM：ドリーム>

☐ Drinking（飲む）

「お腹の動きが良くなります」

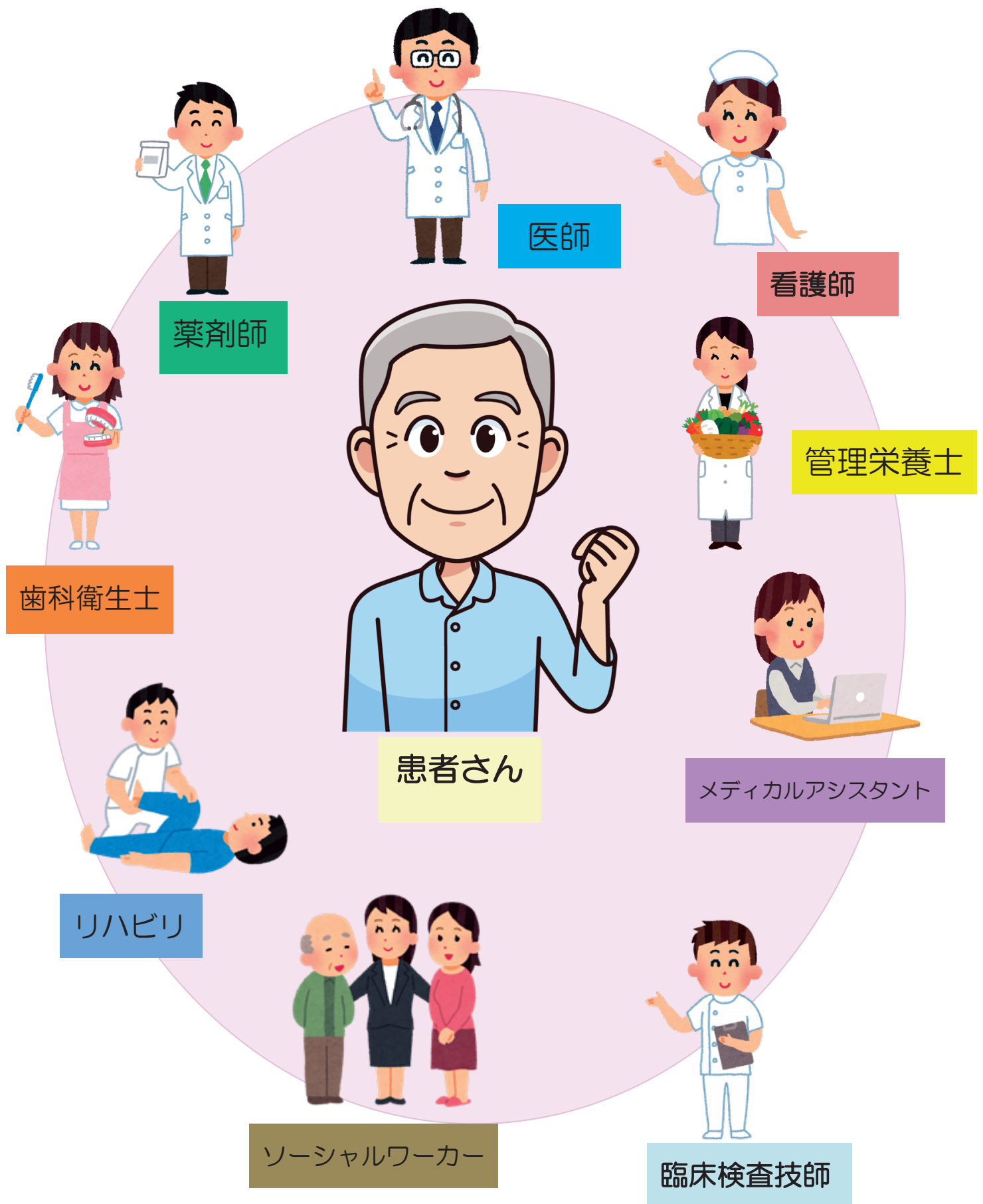
☐ Eating（食べる）

「胃腸の回復が早まります」

☐ Mobilizing（動く）

「体力の回復が早まります」

あなたが、チーム医療の主役です！



目次

I：手術前の準備

1. 手術前の栄養・身体測定結果について…………… 1 ページ
2. 手術にあたり休止する必要があるお薬について…………… 2 ページ
3. 手術前に準備をしましょう…………… 3～6 ページ
禁煙、お酒、糖尿病、口腔内の清潔、お肌のケア
体調管理、運動、呼吸のリハビリテーション、呼吸方法

II：入院してから手術室入室まで

1. 食事・飲水について…………… 7 ページ
2. お薬について…………… 8 ページ
3. 手術室に入る前に外していただくもの…………… 9 ページ
4. 手術当日の準備…………… 10 ページ
5. 手術室に入ってからの流れ…………… 10 ページ
6. 麻酔について…………… 11～12 ページ

III：手術後の生活

1. 食事・飲水について…………… 13 ページ
2. 手術後の内服薬や痛みの対策について…………… 14 ページ
3. 手術後の合併症と予防について…………… 15～17 ページ
4. 早期離床について…………… 17～18 ページ
5. せん妄予防と対策について…………… 19～20 ページ

IV：私のかいふく日記 ご記入の方法…………… 21～22 ページ

V：入院・手術に必要な持ちもの…………… 23 ページ

I 手術前の準備

1. 栄養状態・身体測定結果について

手術に向けて筋肉保持（貯筋）は重要です。1日3食をしっかり食べることを心がけ、特にたんぱく質を多く含む肉・魚・卵・大豆製品を積極的に摂りましょう。さらに体力をつける必要がある方には個別に栄養相談を行います。

1) 現在の栄養状態

☐ 良好	栄養の状態は良好です。 手術まで現在の食生活を継続しましょう。
☐ やや不良	手術までに栄養の状態を維持・改善する必要があります。 管理栄養士がアドバイスします。
☐ 不良	手術までに栄養の状態を改善する必要があります。 栄養強化のために栄養剤処方や管理栄養士との栄養相談を行います。

※栄養状態は、手術後の回復や合併症の発症に影響する場合があります。

2) 身体測定の結果について

○ 握力とは？

身体の筋肉量を簡単に知ることができる指標の一つです。
65歳以上の方は、以下の基準値に該当すると筋肉量が少ないと判断されます。

握力	
男性	27kg未満
女性	16kg未満

○ BMIとは？

体格指数のことで、肥満ややせ等の判定を行うことができます。
日本人では、BMIが22の時の体重を標準体重と言います。

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$

BMI (kg/m ²)	
やせ	18.5未満
正常	18.5～25未満
肥満	25以上

2. 手術にあたり休止する必要があるお薬について

1) 医療機関から処方されたお薬について

手術による出血が止まりにくくなり、手術後に血栓(血のかたまり)ができるリスクを抑えるために、血液をサラサラにする薬、^{こつそしょうしょう}骨粗鬆症 治療薬、ピル等のお薬を原則、手術前から休止していただきます。(別紙配布)

当院以外の医療機関からお薬が処方された際は、その中に休止する必要があるお薬が含まれていないかどうか、必ず医師にご確認ください。

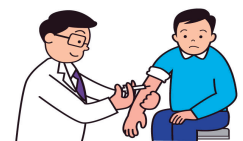
2) 予防接種について

手術や麻酔により、一時的に免疫機能が低下するため、予防接種の効果が十分に得られない可能性があります。

予防接種を受ける時期は、

手術の3日以上前

手術から2週間以上経過してから 受けてください。



例えば

手術日が5月11日であれば、

手術前の接種は、5月 8日までに接種してください。

手術後の接種は、5月25日以降、接種してください。



※小児の場合、予防接種の種類により上記と異なりますので、ご相談ください。

3.手術前に準備をしましょう

1) 禁煙について



たばこで気管支が刺激され痰の量が増えます。

さらに痰を出す力が低下する為、肺炎の原因になります。

また、酸素が十分に体に運ばれにくくなり、傷の治りが悪くなってしまいます。

禁煙は、いつから始めても合併症を減らす効果があり
早いほど有効です。

※アイコスや電子タバコについても同様です。



2) お酒について

多量の飲酒は、肝臓に大きな負担がかかってしまいます。

さらに肝臓の働きが悪くなると、痛み止めなど使えるお薬
が限られてしまいます。

肝臓に負担をかけないためにお酒を控え、週1～2日の

きゅうかん び
休肝日をつくりましょう。



3) 糖尿病について

血糖値が高いと、免疫力が低下するため傷の治りが悪くなり
ます。医師の判断で、手術前に血糖値を調節するための入院
をしていただく場合があります。

4) 口腔内の清潔について



歯磨きや入れ歯の清掃が不十分だと、お口の中に細菌が増殖してしまいます。お口の中の細菌が原因となる肺炎などの合併症予防のために、食事の有無にかかわらず歯磨きや入れ歯の清掃を行い清潔に保ちましょう。

※当院の口腔外科受診時、別途保険診療の費用が発生する事があります。ご了承ください。

5) お肌のケアについて



皮膚が乾燥していると、テープをはがす時などに皮膚がめくれてしまう場合があります。

保湿剤を全身にこまめに塗る事で皮膚への刺激を予防できます。入浴・シャワーの後に塗るとより効果的です。

※保湿剤は、市販のクリームなどで十分効果は得られます。

6) 体調管理について



栄養、睡眠を十分にとり規則正しい生活を心掛け、風邪などひかないように注意しましょう。

入院3日前に発熱や体調不良になった場合、各診療科へご連絡ください。

7) 運動について



入院中はベッド上で寝ていることが増えます。

そのため手術後に筋力が低下したり、関節が硬くなったりする場合があります。筋肉を保持するために、趣味や散歩などを行い積極的に動きましょう。

～転倒やケガをしないように注意して、運動しましょう～



仰向けで足を上げる運動



仰向けでお尻を上げる運動

- ご自宅でできる簡単な運動：目安は 10 回×3 セット
- 軽い運動：15～30 分のウォーキング
- 中等度の運動：1 日 10,000 歩を目標に歩く

8) 呼吸のリハビリテーションについて

手術後は、全身麻酔の影響や創の痛みなどで呼吸が浅くなり肺炎を起こしやすくなります。肺炎などの合併症予防のため術前より呼吸訓練を行いましょう。

リハビリの前のストレッチ

呼吸筋のストレッチをする事で、胸が広がりやすくなり楽に呼吸ができるようになります。



肩をすぼめる運動



両手を上にあげる運動



体を横に倒す運動



体をひねる運動

9) 呼吸方法について

(1) 口すぼめ呼吸

口笛を吹くようにして息を吐く呼吸です。

この呼吸を繰り返すことで、気道を広げ息を吐きやすくします。

〈方法〉

- ① 鼻から息を吸います。 『1. 2…』
- ② 唇を軽く閉じて口からゆっくりと吐き出します。
『1.2.3.4…』



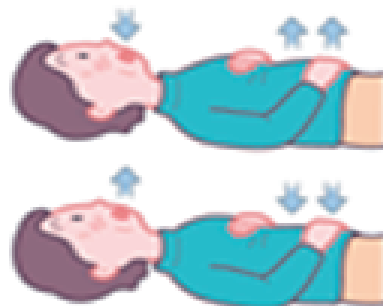
※お腹の力を借り、口をすぼめてゆっくり息を吐きましょう。

(2) 腹式呼吸

横隔膜をゆっくり動かすことで、酸素を十分に取り入れることができ、楽に呼吸ができるようになります。

〈方法〉

- ① 軽く膝を曲げて立て、手を胸とお腹に置きます。
- ② 鼻から息を吸い込み、お腹が膨らむのを
手で確認します。



Ⅱ 入院から手術室入室まで

1. 食事・飲水について

手術前の食事・飲水に関しては病院の指示に従ってください。

1) 食事について

病院で提供された食事以外は食べないでください。



Illustration: Akiko Akiba

手術前の食事例



2) 飲水について

手術前日から手術当日の朝まで、経口補水液（OS-1）を飲んでいただきます。

飲み方は、ゆっくり少量ずつ飲んでください。手術当日の朝まで飲めるため、喉の渇きや空腹感、脱水を防ぐことができます。また、手術前日からの点滴が不要になります。

- 手術の開始時間が遅くなる場合、点滴を始めることがあります。
- 体調が悪い場合や味が合わず飲めない時は、お知らせください。

経口補水液	☐ 500mL （ペットボトル1本）
	☐ 1000mL （ペットボトル2本）
	☐ 1500mL （ペットボトル3本）

最終食事時間	手術前日の [昼食・夕食] まで
最終飲水時間	手術当日の朝 [7時・9時・11時] まで

2. お薬について

1) 持参されたお薬、お薬手帳について

- 入院後お薬手帳と入院期間分のお薬を、病棟看護師または薬剤師にお渡しください。
- 継続してお薬を内服するか、主治医に確認してから説明させていただきます。
- ご自身で内服管理できる方は、確認後返却します。
主治医の指示通りに内服してください。
お薬の内容により、看護師管理となる場合があります。
- 内服管理が必要な方は、看護師がお薬を管理し退院時に返却します。

2) 手術当日内服するお薬について

主治医に確認し、内服するお薬と時間を説明します。

手術当日は、

持参のお薬（ ）を



（ ）時に

少量のお水で飲んでください。

3. 手術室に入る前に外していただく物



- かつらやウィッグは、つけたまま入室ができます。ご相談ください。
- 補聴器やめがねをつけて入室する際は、ケースをご持参ください。
- 入院までに爪切りをしてください。
- マニキュアやジェルネイルなどは、入院までに除去してください。
指先に機械を装着し、呼吸状態を正確に測定するためです。
- まつ毛のエクステは、手術中抜ける可能性があります。
- 手術中、貴金属類を身に着けているとやけどをすることがあります。
指輪は入院前に外れるかどうか確認してください。外れない場合は、
指輪を切ることがありますので事前にご相談ください。

4. 手術当日の準備

- 1) 朝起きたら、洗面・歯磨きを済ませてください。
- 2) 手術室入室前に、トイレを済ませましょう。
- 3) 術後の血栓防止のために弾性ストッキングを着用します。

※手術の内容により、着用しない事があります。



- 4) パジャマはご自身のものか、病院のものを着てください。

ブラジャーやTシャツなどは着用できません。

※寒い場合は、カーディガンなどを着用できます。

- 5) 髪の毛が長い方は、髪の毛をまとめましょう。

※金属や飾りのついていないヘアゴムを使用してください。

- 6) 貴金属や身に着けているものがないか最終確認します。

- 7) 貴重品は、ご家族に預けてください。

ご家族の来院がない方は、看護師にご相談ください。

5. 手術室に入ってからの流れ

- 1) 本人確認のため、氏名・生年月日・手術部位（手術内容）をご自身で言っていただきます。
- 2) アレルギーや入れ歯の有無、歯の状態など確認します。
- 3) 感染予防のために、帽子をかぶっていただきます。
- 4) テープによる皮膚への刺激を予防するために、お口のまわりに皮膚保護剤を塗っていただきます。
- 5) ベッドに横になり、心電図・血圧計などを装着してから点滴をします。



6. 麻酔について

□全身麻酔（ぜんしんますい）

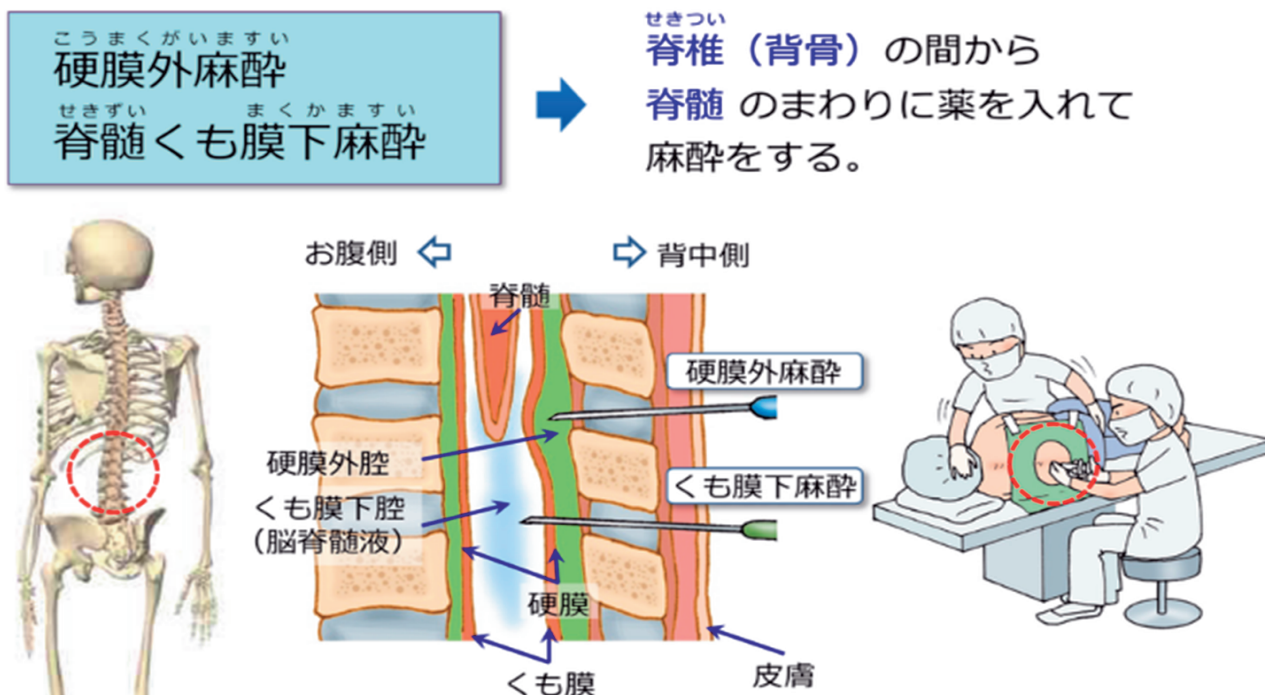
マスクを付けて酸素を吸いながら、点滴から眠くなるお薬を入れます。眠ってから呼吸のための管を喉に入れ、手術中は人工呼吸をします。手術中は痛みや記憶は全くなく、最も安全な麻酔方法です。

□硬膜外麻酔（こうまくがいますい）

お腹・胸・下肢の手術では、全身麻酔を受ける前に硬膜外麻酔を行います。手術の後の痛みを和らげ、お腹の動きも促進させます。

消毒の後、背中をネコのように丸くしていただきます。

次に背中に局所麻酔の注射をしてから、細い管を入れます。管から痛み止めが持続的に流れ、痛い時は痛み止めを追加することができます。



＜硬膜外麻酔（痛み止め）の追加方法＞

- ご自身で硬膜外麻酔のボタンを押してください。
- ご自身で押せない場合、看護師に押してもらいましょう



（ボタン）



（硬膜外麻酔の容器）

- 足のしびれ、吐き気、めまいなどの症状がある場合は
医師、看護師にお知らせください。

□脊髄くも膜下麻酔（せきずいくもまくかますい）

細い針を使用しくも膜下腔という場所に局所麻酔薬を入れ、
脊髄を麻痺させます。

麻酔が効いている間（3 ～ 6 時間）は、感覚が無くなります。
足を動かせなくなりますが、徐々に感覚は戻ってきます。
手術後、まれに頭痛が起こることがあります。
通常は、数日間安静にしていれば自然に治まります。

＜全身麻酔の後につらいと感じる3大項目と対策＞

- 1) 痛み→計画的に痛み止めを使用します。
- 2) 吐気→予測される人には、お薬を事前投与します。
- 3) 寒気→手術中～後は体温管理に努めています。

Ⅲ 手術後の生活

1. 飲水・食事について (Drinking, Eating)

飲水開始時期	手術当日の夜もしくは翌日の朝から水を飲むことができます。開始時期は医師・看護師からお伝えします。飲み込みづらさやむせ込みがないか確認します。
食事開始時期	手術後〔 〕日目の〔朝食・昼食・夕食〕からの予定です。

<手術後の食事の例>



飲み物のみ



お粥と軟らかいおかず



ご飯としっかりしたおかず

- 手術後は、経過に合わせて食事を提供します。
- 一口ずつゆっくりよく噛んで食べてください。
- 手術後はじめての食事は、消化管を動かす目的がありお腹のリハビリを兼ねています。

※手術後の状況により飲食ができない場合があります。

- 手術後の食事が食べにくい、食欲がない等の症状があればお知らせ下さい。管理栄養士が伺います。
- 手術内容により、退院までに栄養相談があります。

退院後の食事の注意点、食材の選択方法を管理栄養士よりお話しします。

2. 手術後の内服薬や痛みの対策について

1) 内服薬について

お薬は、再開の指示があるまでお待ちください。

2) 痛みの対策について

手術後の痛みに対して次のような対策がとられています。

※手術の内容により対策が異なります。

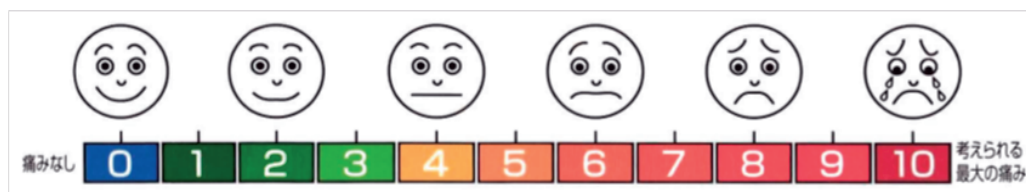
- 硬膜外麻酔を挿入
- 定期的に、点滴の痛み止めを使用
- 定期的に、痛み止めを内服
- 頓用で痛み止めを使用

手術後の痛みは、強くなる前から予防していきましょう。

痛み止めの効果が得られない方や、安静にしているても、

3を超える痛みの場合は、我慢せずに医師・看護師にお知らせください。

痛みの程度を0～10までの数で表現。痛みなしが0点、考えられる最大の痛みが10点



手術後の痛みの強さは下の図を参考に数字で教えて下さい

※当院では、手術後の痛みや吐き気に対応する専門チームが活動しています。手術翌日、回診に伺うことがあります。

3. 手術後の合併症と予防について

手術の合併症が起こると身体への影響だけではなく、入院期間が延長し、追加の治療が必要になります。そのため手術前から予防することが大切です。医師の許可がでたら、早期離床（ベッドから降りて動くこと）を積極的行いましょう。

1) 吐き気

麻酔の影響で、手術後に吐き気がでることがあります。吐き気がやすい方は、女性の方・乗り物酔いしやすい方・以前、麻酔後に、吐き気の経験がある方です。手術当日から翌日までの症状といわれています。

予防

（１）手術中よりお薬を使用し予防していきます。

2) 肺炎

全身麻酔の影響や、長時間安静にしていることで痰が増えてきます。痛みで咳ができないことで痰がたまり、肺に入る空気の通り道がふさがれます。そのため肺の隅々まで空気が入らない状態になり、さらに、痰から細菌が繁殖することが肺炎の原因になります

予防

- （１）手術前から、呼吸リハビリや禁煙をしましょう。
- （２）深呼吸をして、肺を広げて酸素を取り込みましょう。
- （３）痰をしっかり出しましょう。
 - 咳をする時は、傷の上に手を添えてみましょう。
 - 痛みで痰が出せない場合は、痛み止めを使いましょう。
 - 口腔内が乾燥すると痰がでにくくなるため、うがいをしてみましょう。

(4) 動きましょう

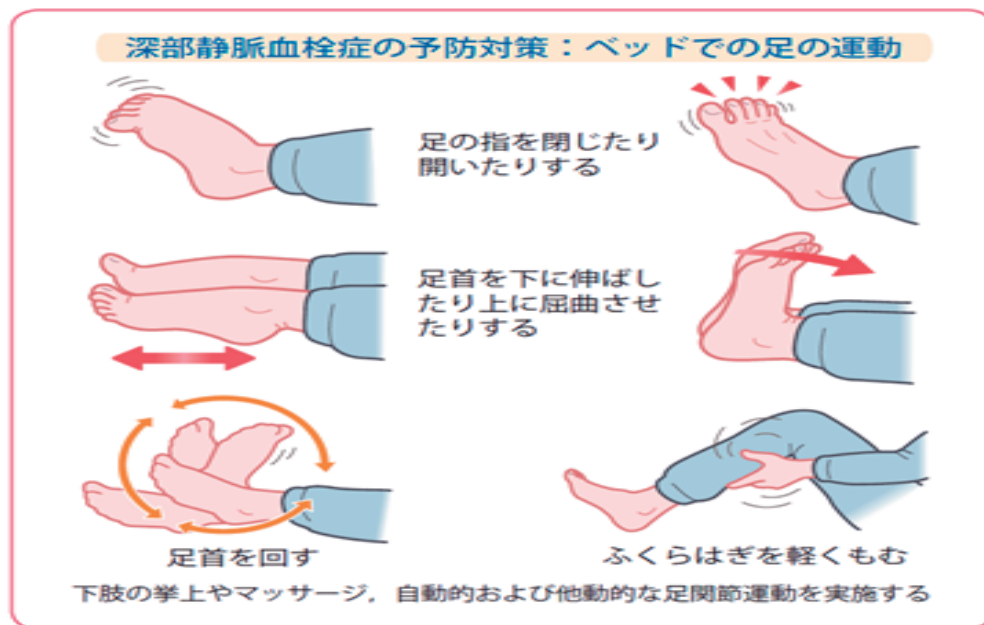
- 医師の許可がでたら、積極的に動きましょう。
- 起きて動くことで肺が広がり、呼吸運動が改善されます。
- 呼吸が楽にでき、痰は出しやすくなります。

3) 血栓の形成（深部静脈血栓症）

長時間同じ姿勢でいることで、血液の固まり（血栓）が
できやすくなります。血栓が肺の血管に詰まると呼吸困難
や胸痛のほか、重症な症状を引き起こすことがあります。

予防

- (1) 弾性ストッキングを着用します。
- (2) 許可がでたら、体を動かすことが大切です。
- (3) ベッドの上で、足の運動をすると効果的です。



4) 腸管麻痺

麻酔の影響で腸の動きが低下しますが、手術後は徐々に回復していきます。腸管麻痺になると、腹部の張り感・嘔吐・腹痛などの症状がでてくるため、追加の治療が必要となることがあります。

予防

- (1) 許可がでたら飲水や食事をすすめましょう。
- (2) 腸の動きを回復するために、積極的に動きましょう。

4. 早期離床について (Mobilizing)

術後の合併症を予防するために、経過をみながら早期離床を行っていきます。

はじめて離床する際は、体調の変化がないか観察するため、必ず看護師と一緒にいきます。



1) 手術後の起き上がり動作方法

手術後は腹筋や創部に無理な力がかかると、痛みを生じることがあります。痛みを予防できる起き上がり動作をしてみましょう。

(1) ベッド上に起きてみましょう。

①起き上がる方向にお尻を端にずらし、横にむきます。

②電動ベッドのリクライニング機能を使い、

背もたれを適度な位置まであげます。



(2) ベッドの端に座ってみましょう。

①ベッドについた手で体を支えて、両足をベッドの下へ降ろしながらゆっくりと身体を起こします。

②点滴や尿管などの管類が引っ張られないように注意してからだを起こしましょう。



(3) ゆっくりと立ち上がってみましょう。

(4) 転ばないようにゆっくり歩いてみましょう。

5. せん妄（せんもう）予防と対策について

せん妄とは、入院による環境変化のストレスや病気・手術・治療による影響でより引き起こされる意識障害の1つです。

精神状態や行動に変化を起こします。認知症とは異なります。

せん妄は、病気の回復を遅らせるため予防が大切です。

<起こしやすい方>

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・高齢の方 | ・認知症あるいは物忘れのある方 |
| ・せん妄になったことがある方 | ・脳血管疾患にかかったことがある方 |
| ・睡眠薬や抗不安薬などを飲んでいる方 | ・お酒の量が多い方 |

<せん妄の症状> *症状は一時的で、改善されていきます

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・日付、時間、自分がいる場所などがわかりにくくなる。・つじつまの合わない会話、何度も同じことを聞く。・夜間の不眠、昼夜逆転になる。昼間よく寝ている。・誰もいないのに「人が見える」と言ったり、空中をつかむ動作をしたりする。・落ち着きがない、点滴やチューブを知らずに抜いてしまう 等 |  |
|---|--|

1) 入院前から行う予防

(1) 規則正しい生活を送りましょう。

(2) お酒は控えましょう。

(アルコール離脱症状やせん妄を起こす可能性があります。)

(3) 禁煙しましょう。(1日でも早く禁煙することが大切です。)

(4) 不安や心配なことは話したり、聞いたりすることで、気持ちを落ち着かせゆったりとした気持ちで過ごしましょう。

(5) 睡眠薬や抗不安薬は、種類によりせん妄を起こす可能性があります。医師や薬剤師に相談しましょう。

2) 入院中の予防と対策

- (1) 朝から日光を取り込んで、部屋を明るくしましょう。
- (2) 時計やカレンダーを近くに置き、日時の確認をしましょう。カレンダーに予定を書き込むとより効果的です。
- (3) 普段使用されている眼鏡、補聴器を使用しましょう。
- (4) テレビ、音楽・ラジオ、新聞・本・雑誌などで気分転換をして過ごしましょう。
- (5) リハビリは積極的に行いましょう。



3) ご家族の方へ

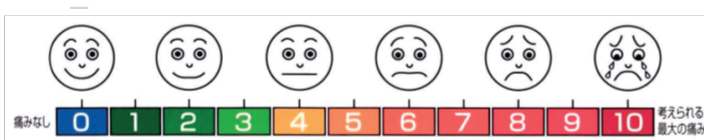
- (1) 患者さんの様子が「何かいつもと違う」と感じた場合は、医師、看護師へお知らせください。
- (2) つじつまの合わない会話があった場合、否定せず、お話を聞いてください。安心できるような声かけをしましょう。
- (3) ご家族がそばにいただけで安心して過ごせます。
13時～20時の面会時間にお越しください。
- (4) 体調が安定したら、一緒に散歩に行き、気分転換を図りましょう。散歩に行く際は看護師に確認してください。
- (5) ハサミなどの持ち込みは危険です。お持ち帰りください。

4) もし、せん妄になってしまったら？

主治医や病棟看護師と一緒に専門チームが加わり、せん妄症状を改善できるよう、お手伝いさせていただきますのでご安心ください。

6. かいふく日記

*痛みの程度を表す指標です



使用例						月 日					月 日				
術後 1 日目						術後 日目					術後 日目				
時	痛み*	薬	その他	尿	便	痛み*	薬	その他	尿	便	痛み*	薬	その他	尿	便
10	5	○		○											
11															
12		○	吐き気 有り												
13															
14				○											
15			散歩												
16															
17	4	○													
18	1		食事 半分												
19															
20				○	○										
21															
22	2														
23				○											
0															
1															
2				○											
3															
4	1			○											
5															
6															
7			食事全	○											
8															
9															
その他	7時に起きて食事をした。 食後吐き気なし。 痛み止めの内服薬が始まる。														

	月 日 術後 日目					月 日 術後 日目					月 日 術後 日目				
時	痛み*	薬	その他	尿	便	痛み*	薬	その他	尿	便	痛み*	薬	その他	尿	便
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
0															
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
その他															

※ご自由にお使いください。

入院・手術に必要な持ち物

入院手続きに必要なもの	
☐	診察券（入院中は病棟保管になります）
☐	保険証・医療受給者証、限度額認定証（お持ちの方）
入院必要書類	
☐	入院申込書（緊急連絡先確認：自宅に記載したもの）
☐	入院セット・紙オムツレンタル申込書（希望者のみ記載）
☐	個室使用申込書（個室使用者のみ記載）
☐	【入院にあたってのご質問】用紙
薬・医療機器関係	
☐	お薬手帳
☐	使用しているお薬（入院期間分）＊吸入薬、貼付薬、目薬、軟膏など忘れずにお持ちください
☐	ペースメーカー手帳（お持ちの方）
手術必要書類（各種 2 部持参） ＊患者同意の署名と、記載した日付を記入し持参してください。	
同意書 ＊入院後に渡される方が います。	☐ 手術同意書 ☐ 麻酔同意書
＊医師より渡されている方は 持参してください。	☐ 輸血同意書 ☐ ICU/HCU 入室同意書 ☐ 安全ベルト等の承諾書 ☐ 出血助長作用のあるお薬→ ☐ 中止の同意書 ☐ 継続の同意書
日用品 ＊個室にはスリッパ、ティッシュペーパー、石鹸、シャンプーが準備してあります	
パジャマ 下着類	☐ パジャマ ☐ タオル ☐ 下着 ＊手術当日（手術後）のみ、手術着、下着は病院で準備します。 ＊パジャマ類・タオル類は別料金で病院レンタルが可能です。 ＊パジャマを持参される方は、着脱しやすいものを用意してください。
日用品	☐ 歯ブラシ ☐ 歯磨き粉 ☐ うがい用のコップ ☐ ボディソープ ☐ シャンプー ☐ ティッシュペーパー など
院内での履物	☐ スリッパまたは履きなれた靴 ＊リハビリ予定がある方は、着脱しやすい運動靴を持参してください。
必要な方のみ	☐ 入れ歯ケース ☐ 補聴器ケース ☐ 眼鏡ケース ☐ コンタクトケース ☐ ひげそり ☐ 携帯の充電器 ☐ カーディガン など
婦人科手術の方	☐ ナプキン ＊昼用ナプキン、数日分持参してください。 ＊夜用ナプキンがご自宅にある方は、昼用以外に 1～2 枚持参してください。

済生会横浜市東部病院 患者支援センター 「私のかいふく日記」(第3版)

平成28年11月1日 第1版発行

平成30年 4月1日 第2版発行

平成31年 3月1日 第3版発行

【発行】社会福祉法人 恩師財団 済生会支部

神奈川県済生会横浜市東部病院 患者支援センター

230-0012 神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3-6-1

T E L : 045-576-3000 (代表) F A X : 045-576-3525

【編集】

患者支援センタースタッフ一同

注意：本冊子の無断複写は固くお断り致します。

Copyright © 2019-TOPS, ALL Rights Reserved.